



足立区の高齢者孤立死 データ分析結果

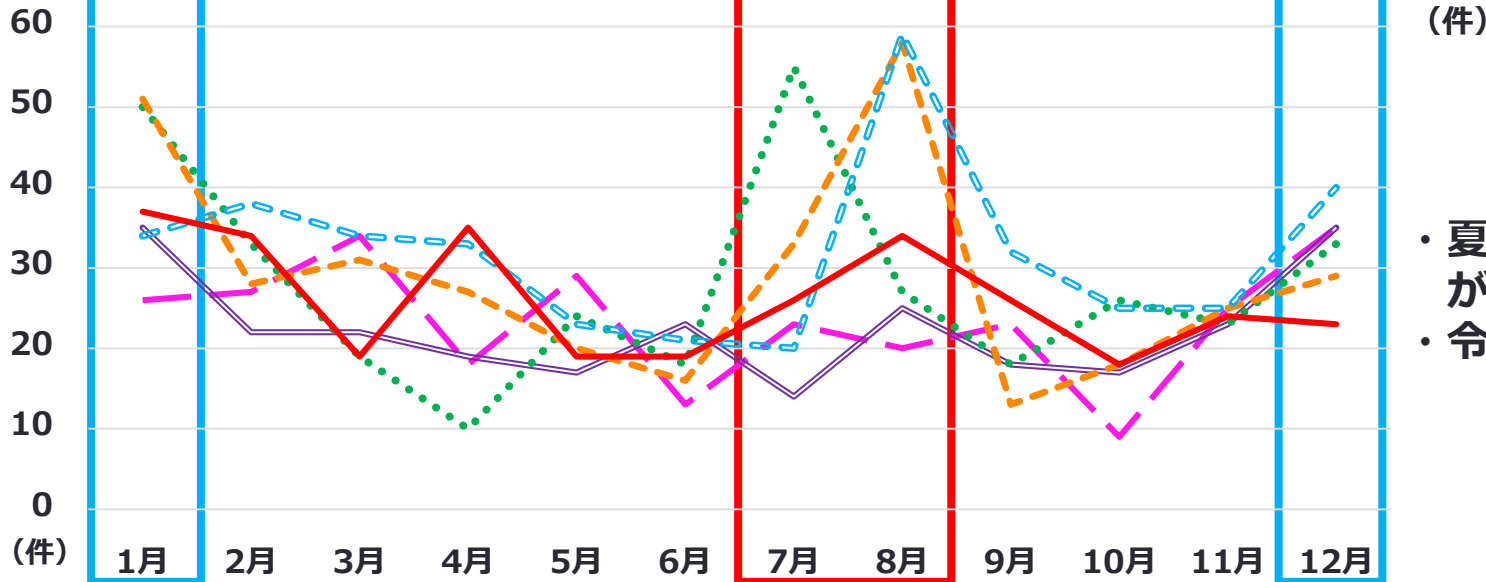
データ出典：東京都監察医務院提供データ（平成28年～令和3年）
当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

■■■■ 目次 ■■■■

1 死亡時期別の集計結果	
(1) 月別高齢者孤立死件数	(P 3)
(2) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最高気温別)	(P 4)
(3) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最低気温別)	(P 5)
(4) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(気温差、平均気温別)	(P 6)
(5) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(状況別)	(P 7)
2 性別による集計	(P 8)
3 コロナ禍における変化	(P 9)
4 集計結果・分析結果	(P 10)
5 今後の取り組み	(P 11)

1-(1) 月別高齢者孤立死件数

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	高齢者人口	高齢者増加率(対前年)	高齢者孤立死増加率(対前年)	高齢者千人当たりの孤立死件数
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282	165,910人	+1.9%		1.7件
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	168,323人	+1.5%	-3.6%	1.6件
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	169,994人	+1.0%	+24.4%	2.0件
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349	170,890人	+0.5%	+3.6%	2.0件
令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384	171,378人	+0.3%	+6.6%	2.2件
令和3年	37	34	19	35	19	19	26	34	26	18	24	23	314	171,715人	+0.2%	-18.2%	1.8件
合計	233	182	159	142	132	110	171	223	130	113	145	195	1935				



— 平成28年 — 平成29年 平成30年 - - - 令和元年 - - - 令和2年 — 令和3年

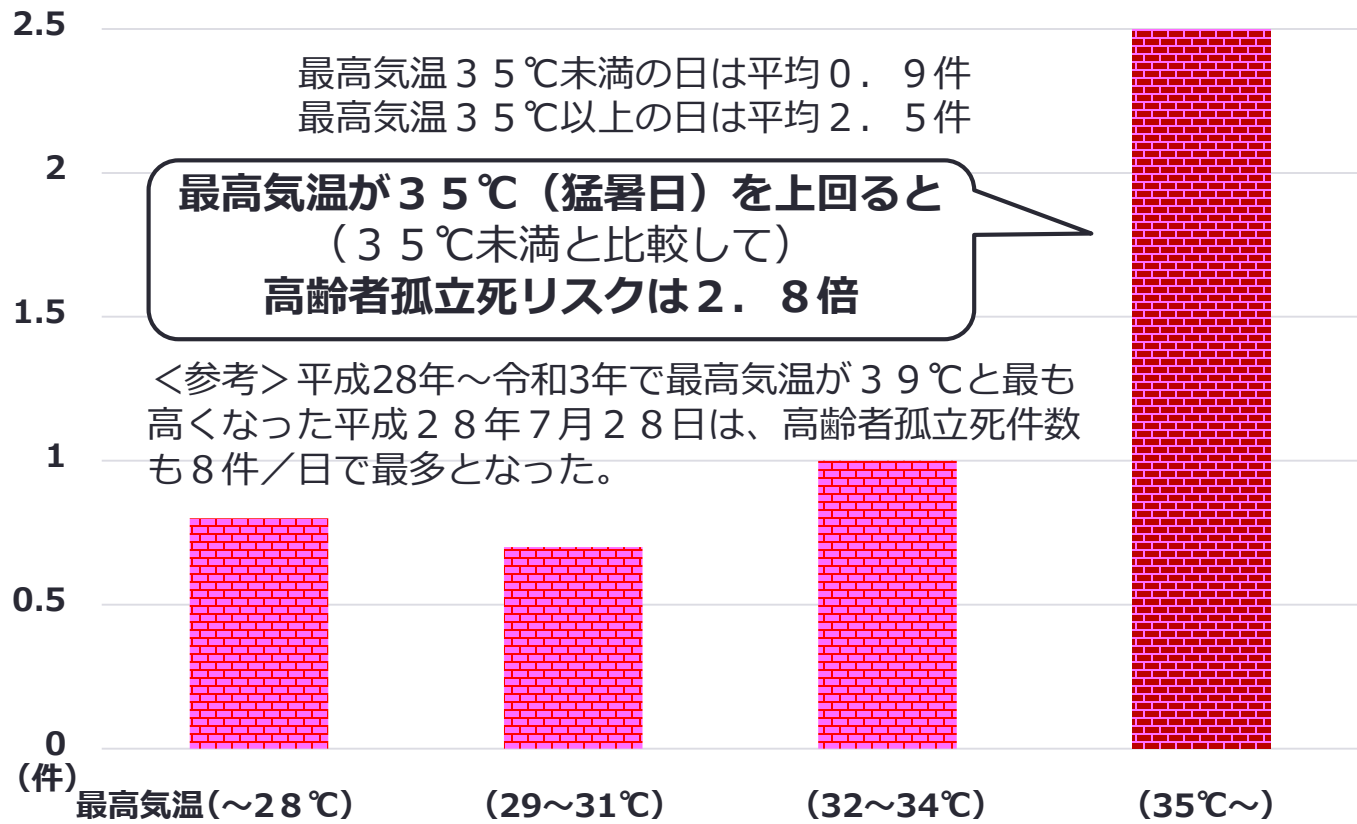
平成30年以降増加していたが、令和3年は減少に転じた

- ・夏季（7月、8月）、冬季（1月、12月）は件数が増加する傾向は継続している。
- ・令和3年は特に8月の件数が減少している。



1-(2) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最高気温別)

最高気温別の平均件数/日



最高気温が35℃(猛暑日)を上回ると(35℃未満と比較して)高齢者孤立死リスクは2.8倍

<参考>平成28年～令和3年で最高気温が39℃と最も高くなった平成28年7月28日は、高齢者孤立死件数も8件/日で最多となった。

夏季は**最高気温と関連性**が見られる。

新規

最高気温の出現数

最高気温出現数	～28℃	29～31℃	32～34℃	35℃～	最高気温 平均値
平成28年	17日	21日	21日	3日	31℃
平成29年	13日	18日	29日	2日	31℃
平成30年	9日	11日	30日	12日	33℃
令和元年	22日	15日	15日	10日	30℃
令和2年	19日	14日	18日	11日	31℃
令和3年	14日	14日	32日	2日	31℃

新規

最高気温別の高齢者孤立死件数

高齢者孤立死件数	～28℃	29～31℃	32～34℃	35℃～	件数 合計
平成28年	13件	14件	15件	1件	43件
平成29年	13件	11件	12件	3件	39件
平成30年	9件	7件	31件	35件	82件
令和元年	20件	17件	24件	30件	91件
令和2年	16件	6件	28件	29件	79件
令和3年	7件	11件	40件	2件	60件

32～34℃、35℃～の上位3位に網かけ

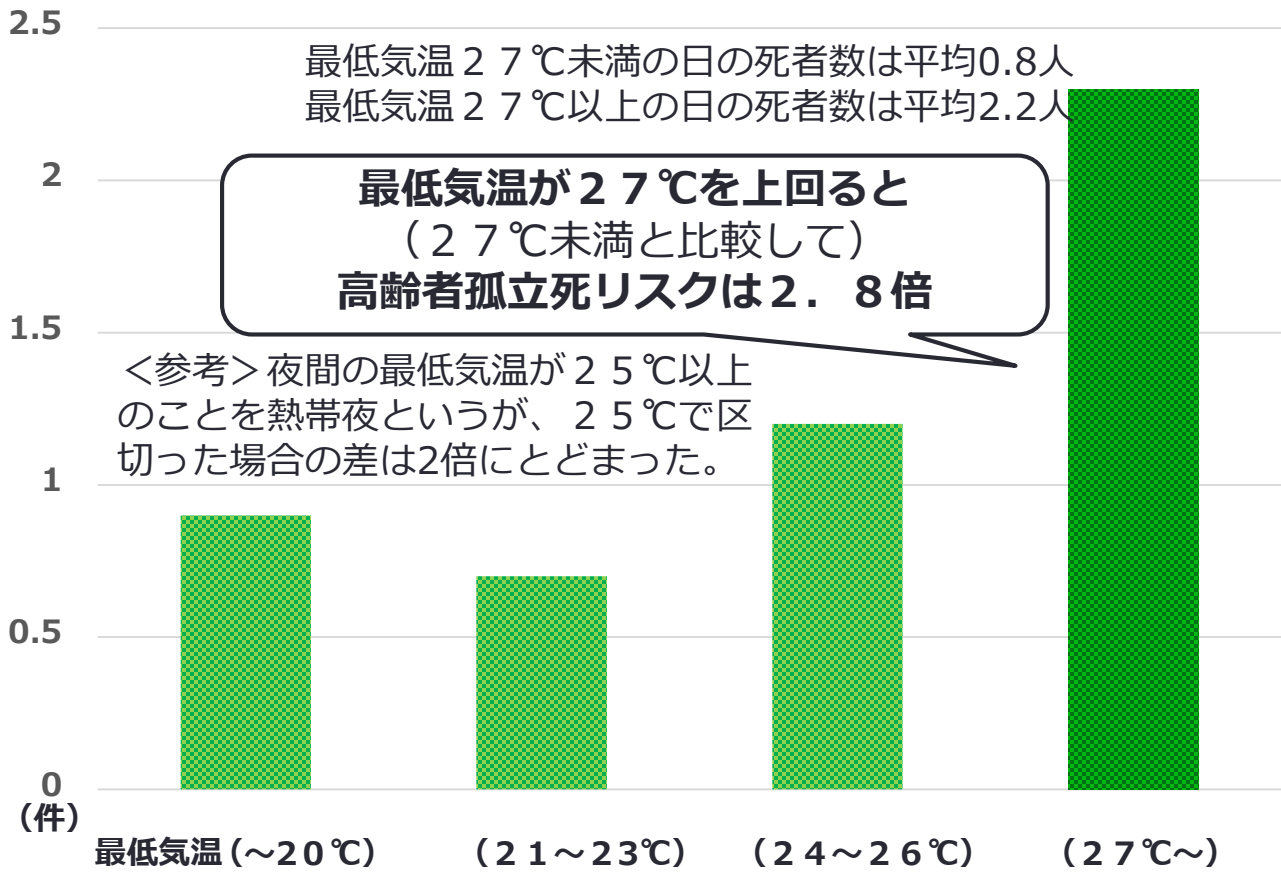
- 各年で最高気温の平均値に大きな変化は無いが、**最高気温(32℃以上)の出現数と高齢者孤立死件数**に関連性が見られる。
- 令和3年は最高気温が35℃を上回った日数が少なかったことが件数減少の一因**と考えられる。



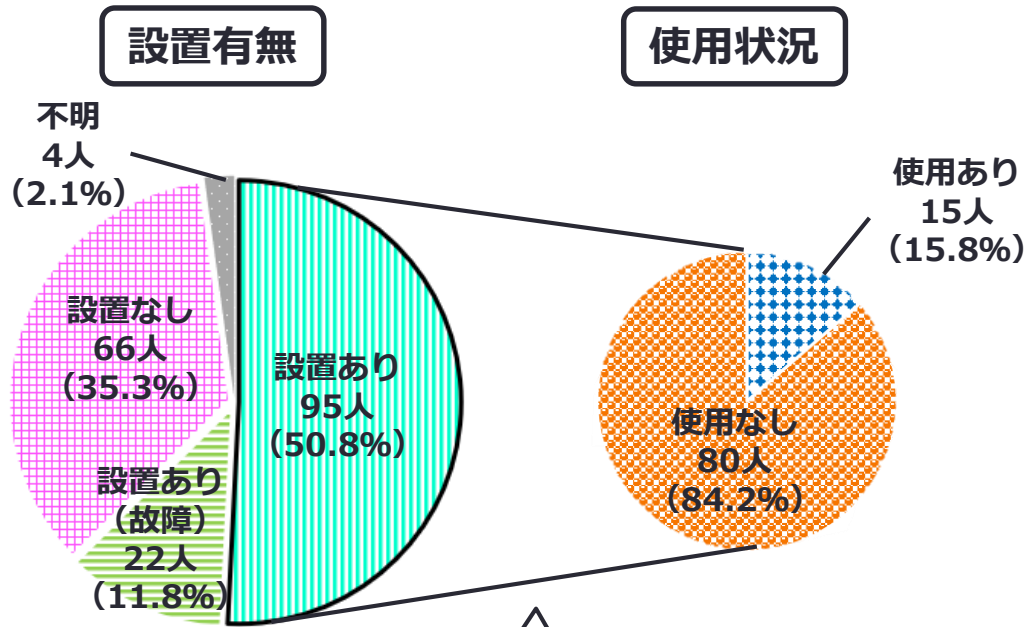
1-(3) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最低気温別)

新規 最低気温別の平均件数/日

夏季は最低気温にも関連性が見られる。



熱中症死亡者(屋内)のエアコン設置有無および使用状況 (令和2年6~9月(特別区内全域、世帯構成・年齢不問))



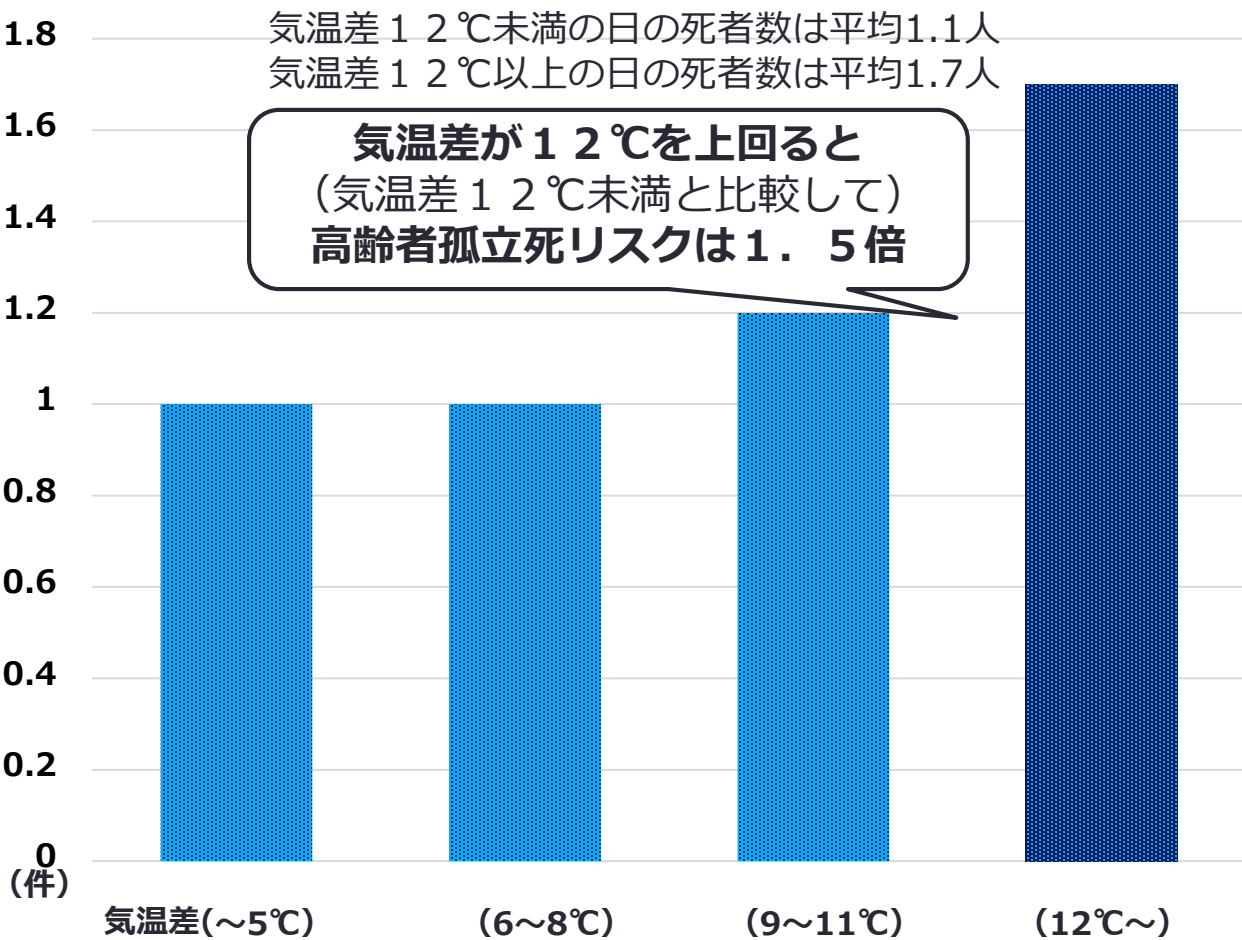
エアコンが使用できる状況であった熱中症死亡者のうち、84.2%は使用していなかった。



1-(4) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(気温差、平均気温別)

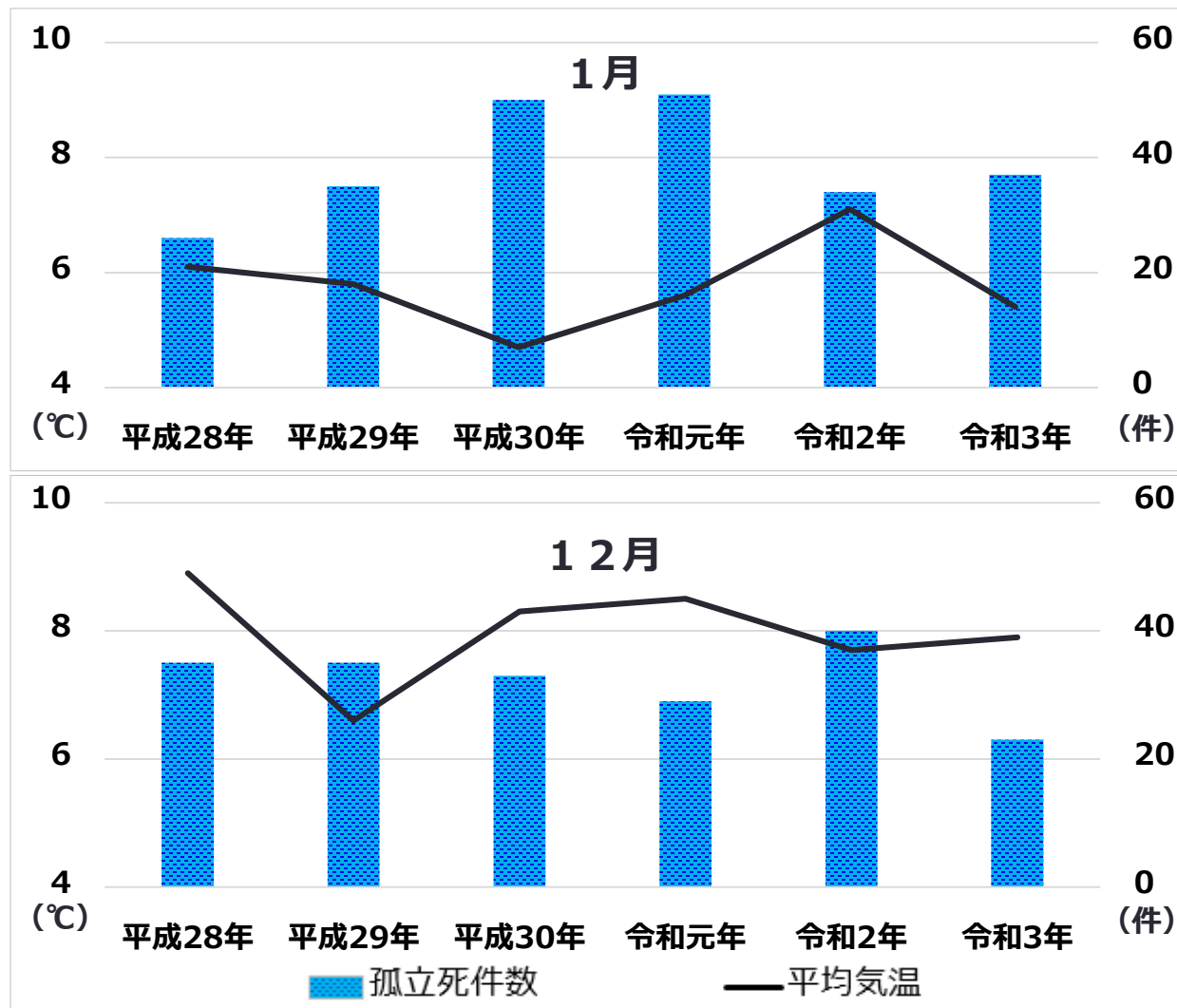
気温差(最高気温-最低気温)別の平均

冬季は最高気温と最低気温の気温差に関連性が見られる。



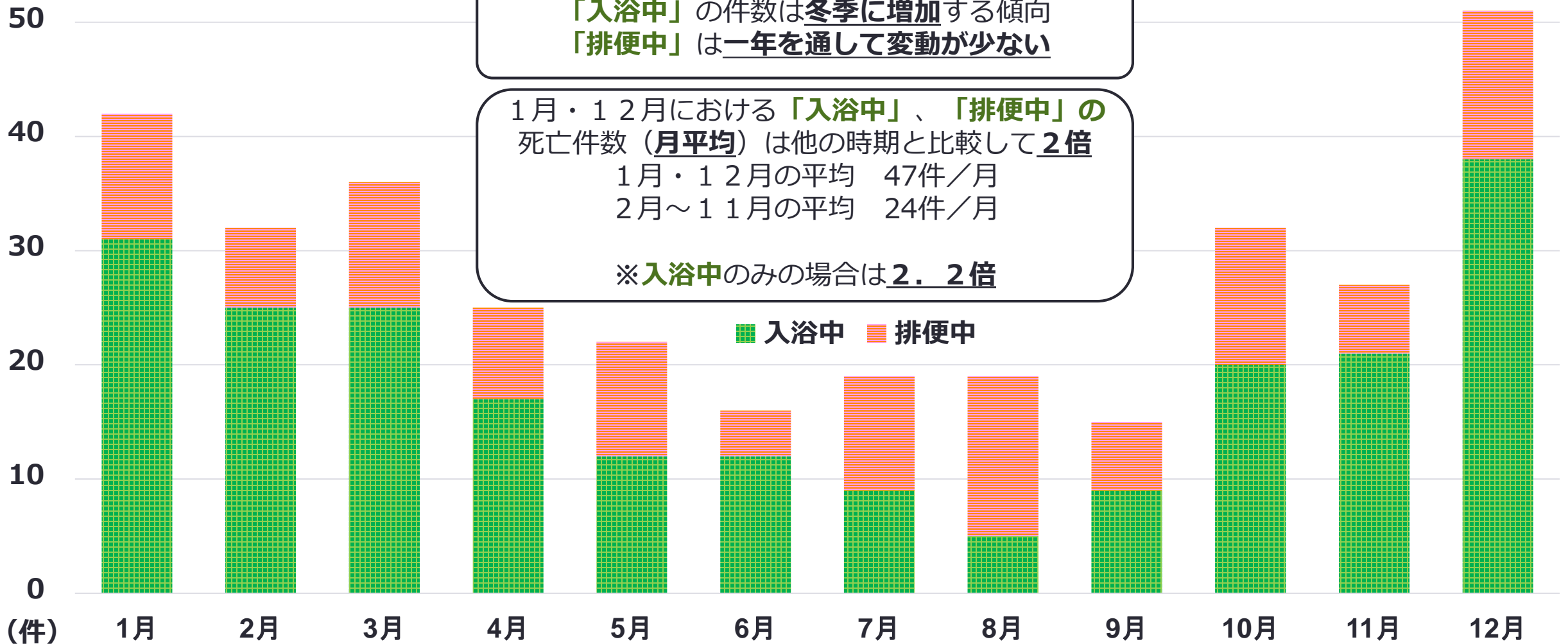
新規 月の平均気温別の件数

冬季は月の平均気温と件数の関連性は見られない。



1-(5) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(状況別)

新規 死亡直前の状況が「入浴中」、「排便中」であった件数(合計)



「入浴中」の件数は冬季に増加する傾向
「排便中」は一年を通して変動が少ない

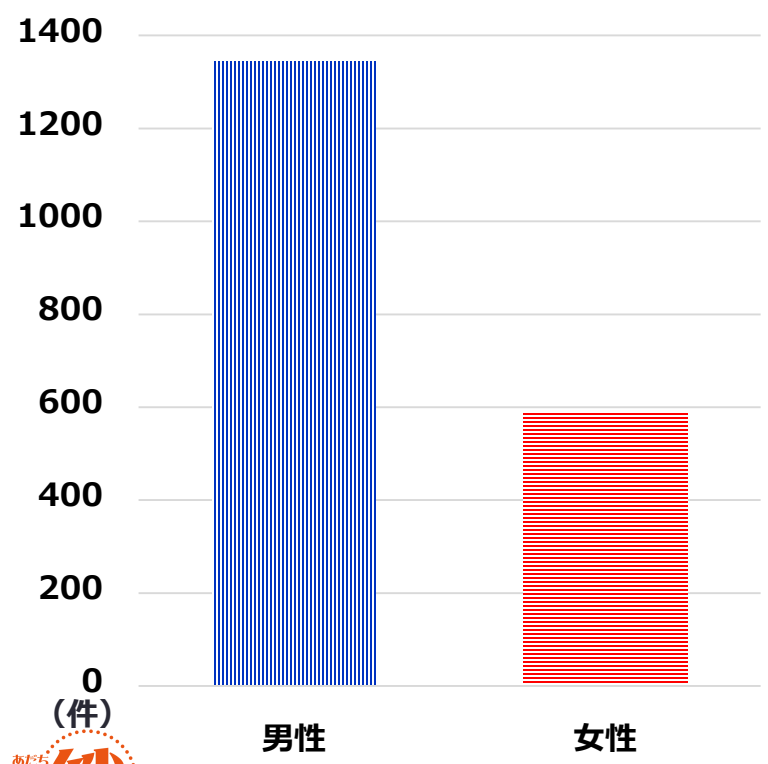
1月・12月における「入浴中」、「排便中」の死亡件数(月平均)は他の時期と比較して2倍
1月・12月の平均 47件/月
2月～11月の平均 24件/月
※入浴中のみの場合には2.2倍

■ 入浴中 ■ 排便中

2 性別による集計

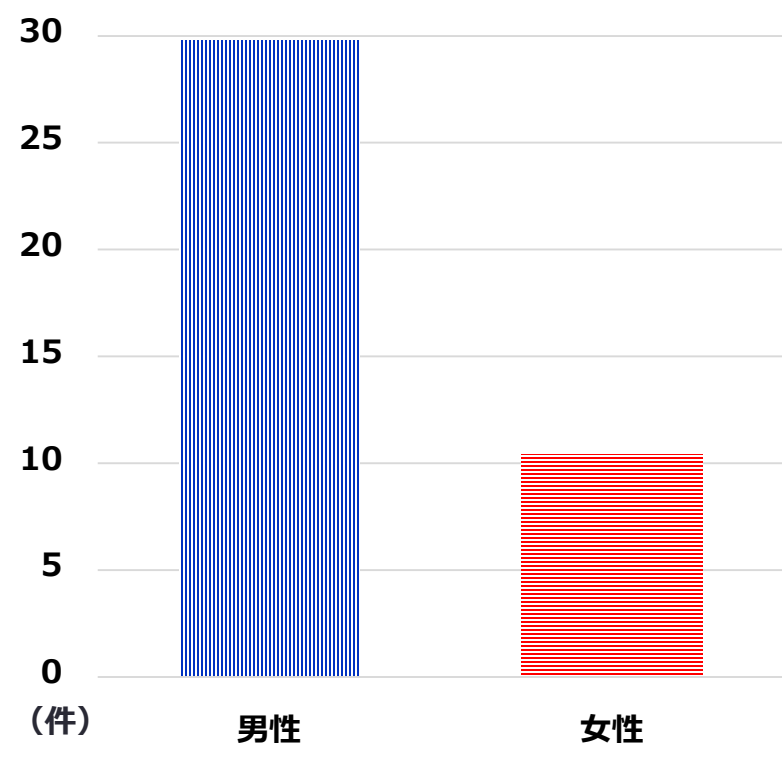
●性別ごとの高齢者孤立死件数
(平成28年～令和3年の合計)

男性1,343件 女性592件
男性の方が2.3倍多い



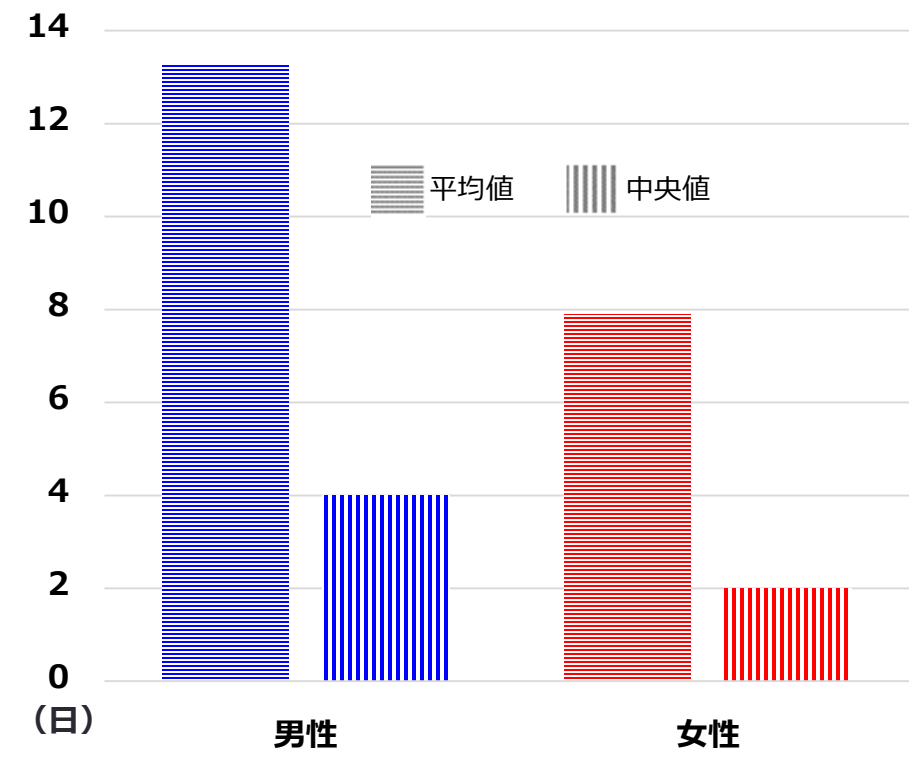
●性別ごとの高齢者1万人当たりの
高齢者孤立死件数
(平成28年～令和3年の合計)

男性29.8件 女性10.4件
男性の方が2.9倍多い



●性別ごとの死後経過日数 (平成28年～令和3年)

【平均値】男性13.3日 女性7.9日
【中央値】男性4.0日 女性2.0日
※中央値とは値を昇(降)順に並べたときに中央の順位にくる値
いずれも男性の方が期間を要している。
また、30日以上経過は85%が男性であった。

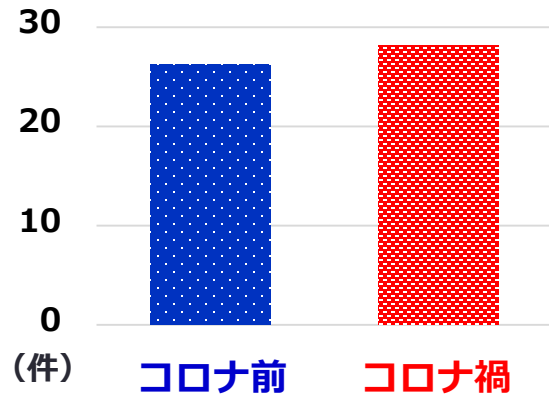


3 コロナ禍における変化

死亡日において、平成28年1月～令和2年3月を**コロナ前**、令和2年4月以降を**コロナ禍**と定義する。

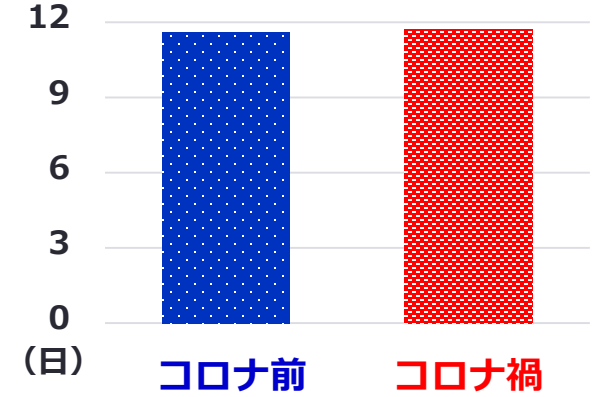
●発生件数（月平均）

コロナ前 26.3件
コロナ禍 28.2件
 →7%増加

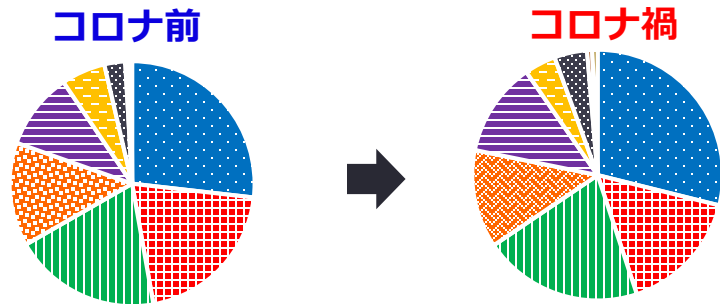


●死後経過平均日数

コロナ前 11.6日
コロナ禍 11.7日
 →1%増加

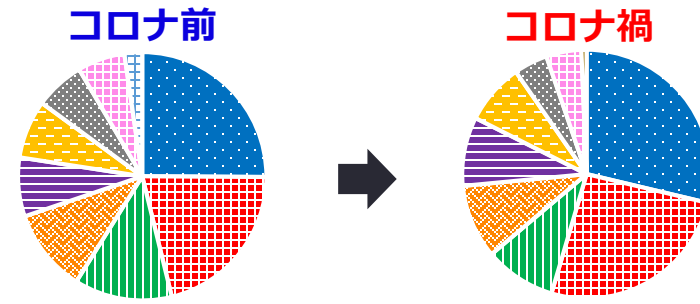


●発見者の割合 →特段の変化なし



- 家族
- 保健・福祉関係者
- 管理人
- その他
- 警察官
- 隣人
- 知人
- 配達人
- 通行人
- 家政婦

●発見の経緯の割合 →特段の変化なし



- その他
- 配達物遅滞
- 異臭
- 姿を見かけない
- 不審音・電気つけっぱなし
- 電話応答なし
- 無断欠勤
- 日常生活中
- 偶然の目撃

4 集計結果・分析結果

	集計結果	分析結果
時期別	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年以降は件数が増加していたが、令和3年は減少に転じた。(P3) 冬季(1月・12月)、夏季(7月・8月)は件数が増加する傾向。(P3) 夏季(7月・8月)の件数は最高気温と関連性が見られ、最高気温が35℃(猛暑日)を上回ると、件数が2.8倍になった。また、32℃以上の出現数、最低気温にも件数との関連性が見られた。(P4～5) 冬季(1月・12月)の件数は最高気温と最低気温の気温差に関連性が見られ、気温差が12℃を上回ると、件数が1.5倍になった。(P6) 冬季(1月・12月)は「入浴中」または「排便中」の月平均件数が2倍になった。(P7) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年は35℃以上(猛暑日)となった日数が直近3年平均の1/5以下となったことも件数減少の一因と考えられる。(P4) 夏季は最高気温、最低気温のいずれとも件数との関連性があった。(P4～5) 件数が増加する夏季・冬季は、気温との関連性が顕著なため、今後、区としてできる対策を検討・周知することで件数を減少できる可能性がある。(P4～6) 冬季(1月・12月)は気温差と件数に関連性があった。冬季に増加する「入浴中」または「排便中」の件数増加についてはヒートショックとの関連性も考えられる。(P7)
男女別	<ul style="list-style-type: none"> 人口当たりの高齢者孤立死件数は男性が2.9倍多い。(P8) 発見までに要した平均経過日数には、男性は1.7倍の期間を要していた。また、30日以上経過したケースは85%が男性だった。(P8) 	<ul style="list-style-type: none"> 人口当たりの高齢者孤立死件数、発見までに要した平均経過日数は女性に比べ、男性が大幅に上回った。ピンポイントの対策により、防止効果が期待できる。(P8)
コロナ禍	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前に比べ、コロナ禍は月平均件数が7%増加した。その他(経過日数、発見者、発見の経緯)については特段の変化は無かった。(P9) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍では発生件数の増加以外は特段大きな変化はなかった。今後(令和5年度以降)もコロナ禍における高齢者孤立死データ分析を継続する。

5 今後の取り組み

- ア 高齢者の相談窓口である地域包括支援センターおよび地域の見守りを行っている関係機関に情報提供し、孤立死が増加する夏季・冬季に重点的に地域の見守りを依頼していく。また、ながら見守りを管轄している危機管理課と連携し、絆のあんしん協力員などの登録を呼びかけ、日常生活での気づきの目を増やす。
- イ 孤立死の現状について、絆のあんしんネットワーク連絡会などの場で本分析を活用してもらうことにより、区民への周知・啓発を進めていく。特に孤立死件数が増加する夏季・冬季に重点的に広報等による周知を図る。
- ウ コロナ禍における孤立死増加の有無については、令和4年中の孤立死の状況も確認する必要があるため、令和5年度も引き続き分析を進める。
- エ 環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築防災課（浴室暖房設置工事費助成）、衛生管理課などの関係所管と情報共有を進め、より効果的な孤立死対策について検討していく。